

日本児童教育専門学校 学校関係者評価委員会 開催記録

1.日時

平成30年3月16日（金）午後19時から午後19時30分まで

2.委員等氏名及び略歴

片岡 輝 東京家政大学名誉教授・社会福祉法人緑伸会理事長
宮澤 叙栄 社会福祉法人どろんこ会 越谷どろんこ保育園 園長
*岡田ひとみ委員代理

<陪席>

阿久津 摂 日本児童教育専門学校 副校長・教務部長・児童教育科 学科長
中西 和子 日本児童教育専門学校 総合こども学科 学科長
菊池 一英 日本児童教育専門学校 キャリアデザインセンター センター長
今泉 良一 日本児童教育専門学校 総合こども学科 専任教員
高井 均 日本児童教育専門学校 事務次長

◆議事要約◆

*本校は3学科とも保育系学科のため、当日は学校関係者評価委員会と教育課程編成委員会を同時に進行した。内容は教育課程編成委員会に該当部分の抜粋とする。

初めに副校長阿久津より、平成30年度のデュアル教育の検討にあたり、現場実践と現在の教育科目との関連性が重要との話があった。

教科目と保育現場での仕事内容の関連図が示された。

<1年生の早い段階で現場実践をする前に、優先ポイントとして何を学ぶのがよいか？>

- ・仕事内容から見ると、「子どもの保健」「食と栄養」など安全と命に係わる部分の仕事が多い→ここが出来ているか現場では見られる。
- ・まずは1年生であれば「保育っていいな」と思えることが大切。学ぶ姿勢に繋がる。
- ・「保育現場での報連相」は1つ1つの行動の意味付けになる。「なぜ」がわかりやすくなる。
- ・「人権」は子どもとどう接する？どう話す？どう保育の中に生かすかを話しやすい。
→すべての根本として重要。どんな気持ちで保育士が子どもと向きあっているか。
- ・「環境」ではヒヤリハットなど危機管理を学ぶが、保育士の行動の「なぜ」を理解してもらう。
- ・安心して子どもといられる状況を理解する。
- ・保護者対応は、現在もキャリアデザインの授業の中で、ロールプレイングを行っている。

知識として知っているのと安心できる。

- ・学生は具体的な事例を見せるとわかりやすい（基本的なことから、専門的なことへ）。
- ・現場で学ぶことは多い。どう実りあるものにするかは、「何を学ぶと、どんないいことがあるか」を伝える必要がある。
- ・現場で何をしたいかわからない→1年生から、遊び方を学べる授業を配置する必要があるのでは？
- ・学校で習ったことを、現場でやってみる場があることはよい。
- ・自分だけできないと不安になる→「子どもって皆、そうなんだよ」と言ってあげること
で学生の心も落ち着く。
- ・大人が学ぶ大切さを学ばないと、子どもにも伝えられない。
- ・カリキュラムを作って、学生を乗せるのではなく、どんないいことがあるかという視点
で運用する。
- ・「保育原理」はすべての大元になるのではないか。幅広い内容を現場で連動しながら説明。
- ・現場に行く前に「何を学んでくるか」という目的意識をしっかり持たせる事前指導が非
常に大切。また、事前の目的に対し自分は何を学んできたかを発表するなど現場を見て
きた学生の理解を深めるアフターフォローを行う。学び合う風土。
→偉い人に教えられるより、同じような人たちからの方が素直に学べる。
- ・現場に対して、事前にどんな目的かテーマを伝えているか？学校と園との情報交換が非
常に大切である。
- ・「楽しい」「大切」などどんな情報を学生にもってきて欲しいか？
- ・現場でしか知り得ないことから、様々な行動の重要さが学べる。責任のある仕事である
ことを自覚できる。
- ・ノウハウは現場にある。それを抽象化して教えるのが今の学校。抽象化しているので、
実習で現場に行くとドギマキしてしまいます。現場体験することで、そのギャップを埋めら
れるとよいと思う。
- ・「楽しい」イメージだけでは現場に行った時に、「違う」となって折れてしまう。
「大変さの裏に楽しさがある」という2面性をしっかりと伝えていく。
- ・中小規模の専門学校だからこそ、そういう教育ができるのでは？
- ・定期的に学生が園に通うと、園側も学生のことを理解できるようになる。園側の受け入
れの気持ち、姿勢もより協力的になる。
- ・園としても人材の供給ということで、プラス面もある。
- ・年齢の近い保育士の話は受け入れやすい。ホームカミングデーなども利用して、卒業生
を大事にしていく。

以上、終了時間となり、次年度の保育現場の活動、授業内容の検討に生かしていくという
ことで散会となった。